

# 援助隊の活動本格化

東日本大震災の被災者や避難住民を支援するため、県内の自治体や県警などから派遣された各援助隊や医療チームの活動が13日、現地で本格化した。県消防防災ヘリコプターに乗り込んだ県消防防災航空隊は宮城県内で同日までに計15人を救助。新たな医療関係者の派遣や救済物資の発送、街頭募金活動も行われるなど、被災地へ向けた善意の輪は日ごとに大きくなっている。

## 東日本大震災

県内14消防本部で編成する緊急消防援助隊は13日午後4時半、宮城県総合運動公園総合体育館(同利府町)に到着。国際医療ボランティア・AMDA(岡山市)も、菅波茂代表ら4人が第3次派遣チームとして仙台へ向かった。既に現地で調査に当たっている医療チームと合流。それぞれ14日以降に医療活動を開始する。

県石巻市に入って活動。4人を救助し8人を救急搬送した。13日も同県塩釜市などで11人を救助。7人を救急搬送、物資輸送も行った。

12日に現地入りした災害派遣医療チームDMAT(ティーマット)の岡山赤十字病院チーム5人は福島県内の病院で、川崎医科大付属

## 県防災ヘリ15人救助 新たな派遣、物資発送も

県消防防災ヘリコプター「きび」は12日午後、山形空港から宮城